

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第36号

空中回廊

この展覧会はまだ入り口…[ブーシキン美術館展]/会員のひろば/愛知県美術館より[開催近づくトリエンナーレ2013]/愛知の芸術家たち[平松礼二]/愛知県美術館コレクションから[長谷川利行《ノアノアの少女》]/友の会活動紹介



長谷川利行《ノアノアの少女》(部分)1937年 愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)

○この展覧会は まだ入口・・・○

プーシキン美術館展 フランス絵画300年

2013年4月26日(金) から 6月23日(日) まで開催

待望の、待望の企画展が実現しました!ロシアの国立美術館から華やかな世界がやってきます。

プーシキン美術館について

モスクワ中心部にあるプーシキン美術館は、世界有数の西洋絵画コレクションを誇っています。67万点を超す収蔵作品は、エカテリーナ2世をはじめとするロマノフ王朝の歴代皇帝や貴族たち、産業革命で財をなした大富豪たちが数世紀をかけて築いた「美の結晶」です。そしてその名声を高めているのが、フランス近代絵画のコレクションです。

作品の収集がはじまった17世紀、ロシアは文明の中心から外れた新興国にすぎませんでした。当時の文明の中心であるフランスへの憧れと、自国の文化を豊かにしたいという情熱に支えられ、充実したフランス絵画コレクションを擁するまでになります。



ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル 《聖杯の前の聖母》1841年
©The State Pushkin Museum of Fine Arts, Moscow



フランソワ・ブーシェ 《ユピテルとカリスト》1744年
©The State Pushkin Museum of Fine Arts, Moscow

フランス絵画の歴史を辿る

この展覧会は時代順の章だてになっており、近代フランス絵画の歩みに沿って鑑賞することができます。

第1章は17-18世紀。この時代には宗教画・歴史画を頂点とする美術のヒエラルキーが存在していました。ギリシア・ローマ美術の人体表現に理想をおいたニコラ・プッサンのダイナミックな作品は、古典主義の表現をよく表しています。また顧客は君主や貴族、高級官僚たち。フランソワ・ブーシェの軽やかで艶やかな作品から、ロココの華やかな雰囲気が味わえます。

第2章は19世紀前半です。新たな美術の顧客として台頭した市民は、巨大な歴史画よりも身近で親しみを感じることができる主題を扱った、小ぶりの作品を好みました。美術の規範は弱体化し、対照的な表



クロード・モネ《陽だまりのライラック》1872-73年
©The State Pushkin Museum of Fine Arts, Moscow

現が並び立つ美術界となります。ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングルが代表する新古典主義と、ウジェーヌ・ドラクロワが代表するロマン主義。アングルの《聖杯の前の聖母》とドラクロワの《難破して》で、その違いを体感できます。



第3章の19世紀後半には、人気の印象主義、ポスト印象主義が登場します。主題、制作スタイル、表現方法全てを刷新した印象主義は、実は30年ほどの間におこった出来事でした。展覧会の目玉、ピエール＝オーギュスト・ルノワールが描く《ジャンヌ・サマリーの肖像》や、クロード・モネの《陽だまりのライラック》など、印象主義の創りだす幸せでたっぷりとした、心地よい空間をお楽しみいただけます。



第4章は、造形上の革新が集中した20世紀前半をとりあげています。パリを舞台にして起こった、色彩の革新であるフォーヴィスム、形態の革新をもたらしたキュビスム。当時は批判も多く評価の定まらなかった前衛芸術の数々。アンリ・マ蒂斯やパブロ・ピカソなど、近代を代表する巨匠の名品が展覧会の最終章を飾ります。

この展覧会には、絵画の魅力が詰まっています。いわば美術の入口です。優雅、荘厳、理想、憧れ、幸福感、郷愁、悲嘆…。絵画が呼び起こす感情や思い出に身を

任せてみてください。心の琴線に触れる作品に、出逢うことができるでしょう。ひょっとすると何年か後に再び逢うことができるかもしれませんし、ロシアへと逢いに行くきっかけとなるかもしれません。またその作品は、美の迷宮への入口となるかもしれません…。

(松下智子)



ポール・セザンヌ《パイプをくわえた男》1893-96年頃
©The State Pushkin Museum of Fine Arts, Moscow

※本記事は副田学芸員へのインタビューを参考に構成しました。

○会員のひろば○

友の会講座『日本建築の美しさについて』

友の会特別鑑賞会「クリムト 黄金の騎士をめぐる物語」展

友の会講座『日本建築の美しさについて 屋根とその支持構造』大同大学工学部 佐藤達生教授

10月20日、大同大学工学部の佐藤達生教授が再び、友の会講座で講演をしてくださいました。

始めに、たくさんの西洋と日本の代表的な建築物の写真を見せていただきました。比べると確かに、日本の建築物は、建物の半分くらいを屋根が占めていることが分かります。日本建築を特徴づけているのは、優美な曲線をもつ大きな屋根とそれを支える骨組みです。

始め中国から伝わった建築の技術は、次第に日本の気候・風土に合わせた発達をします。大量の雨が降る日本では、雨から家屋と中の大切なものを守るために屋根の傾斜を大きくし、軒も深くする必要があります。両方を叶えるために構造的な工夫がなされ、その結果優美で大きな屋根が生まれました。これらの工夫は装飾のためのものではありませんでした。



多くの建築写真を示して講演される佐藤先生

たが、それでもその方法が、日本建築の美的表現を特徴づけるひとつとなったのです。

建物の見かただけでなく、そこから様々なことへの興味を抱ききっかけを与えていただける時間でした。

(松下智子)

○友の会特別鑑賞会「クリムト 黄金の騎士をめぐる物語」展

1月10日に、特別鑑賞会が昼の部・夜の部と開催されました。夜の部では、古田美術課長に2008年からの準備に関わるいろいろな裏話をスライドも交えて伺いました。

ニューヨーク、オタワ、ウイーン、プラハ、ドレスデン、ブタペストなどの美術館と交渉される様子、『黄金の騎士』を貸し出した縁で借りられた作品、借りられなくて残念だった数々の作品、飛騨高山美術館の作

品の映像…などを見せていただき、クリムトの世界を身近に感じる事が出来ました。

その後展覧会場では、村田館長はじめ古田課長や学芸員の方々からも作品の前で貴重な解説を伺えました。

充実した特別鑑賞会は友の会会員の特典です。ぜひ皆さまもご参加ください。

(武藤和子)



夜の館内で解説に聴き入る友の会会員

○愛知県美術館より○

開催近づくトリエンナーレ2013

◆開催近づくトリエンナーレ2013 愛知県美術館長 村田眞宏 ◆

「あいちトリエンナーレ2013」の開催が近づいてきました。初めての開催だった2010年は、建畠哲芸術監督のもと「都市の祝祭」というテーマのもとで、愛知芸術文化センターを拠点に、名古屋市美術館や長者町などを会場にして、これまで経験したことのないようなスケールで現代美術の展示やパフォーマンスなどが展開され、大いに盛り上がったことは記憶に新しいところです。そして今回は都市・建築学が専門で、現代美術の分野などでも幅広く活躍されている五十嵐太郎芸術監督を迎えて「揺れる大地 われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」というテーマで開催されます。これは東日本大震災を経験した日本で、大震災以後に準備し開催される初めての国際芸術祭だからこそ、という趣旨で掲げられたテーマです。

現代美術の特質や魅力には、何と言っても「同時代性」があります。同じ時代を生きる私たちだからこそ共有できる価値や疑問、あるいは不安や喜び、希望といったものを、卓越した感性と今までにない表



オノ・ヨーコ photo: © Synaesthete courtesy of Yoko Ono

現で私たちに提示してくれるアーティストたち。今回は、オノ・ヨーコ、奈良美智といった美術の分野で国際的に著名なアーティストはもちろん、青木淳、台湾の打開連合設計事務所といった建築の分野で注目すべき活動を展開する人たち、さらには東日本大震災で被災した石巻市のリアス・アーク美術館の参加も決定しました。会場も名古屋市内では前回とほぼ同じ規模で、これに加えて岡崎市のまちなかでも開催されます。もちろんパフォーマンスやオペラも加わった複合的な展開、さらにオープン・アーキテクチャや移動型の展示といった新しい試みも加わる予定です。「揺れる大地・・・」というテーマのもとで、彼らの作品から発せられるメッセージを受け止め、驚き、共感し、時に戸惑いながら、通常の美術館の展覧会では実現できないような規模で展開されるトリエンナーレを大いに楽しみたいと思っています。



打開連合設計事務所《Blue Print》2004 courtesy of OU studio

改革する日本画家 平松礼二

愛知出身ではなく、美大出身でもない、私と同じ大学の経済学部の後輩でもある日本画家。5歳から半世紀近く名古屋で制作に励んだ、今や「画伯」に恥じない平松礼二君は、愛知にとっても私にとっても誇れる存在といってよいだろう。

「従来からの『日本画家』の伝統にとらわれず、常に改革の道を歩んで来た」といい、『文藝春秋』の表紙を11年間も飾った。「苦痛は人間の偉大な教師である。苦痛の息吹のもとで魂は発育する」(エッセンバッハ)がモットーという彼。

私の同期生が大須で何年も職場を世話して、その後には中川運河沿い、そして守山・龍泉寺近くの、庄内川を見下ろす眺望のよい場所にアトリエ兼ギャラリーを設けた。とくに、ここの4年間は、足繁く

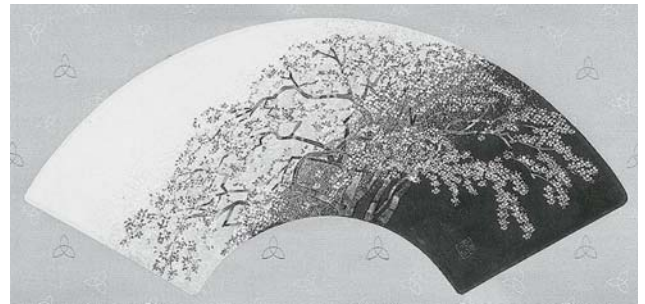


平松礼二《峠四題・花の季》1992年 愛知県美術館蔵

訪ねては芸術・時事論議したものだ。鎌倉への転居前、もう20数年の付き合いだ。

はじめ「路」シリーズだったが、彼にいわせると「花ぐるひ」がはじまり、四季の花に魅せられ、ついで、フランスのジヴェルニー村にあるモネの庭の睡蓮のとりこになり、日本画家の眼によるジャポニズムへと発展した。お陰で母校にも、株分けされたモネ・睡蓮の池が誕生した。この7月から10月、フランスのジヴェルニー印象派美術館で印象派画家らとともに彼の作品26点が並ぶ(注)。(荻野 孝)

(編集部注)2013年4月から9月、第2回ノルマンディ印象派フェスティバルがフランス・ノルマンディの様々な地域で行われる。「平松礼二・睡蓮の池—モネへのオマージュ展」はその一環として、ジヴェルニー印象派美術館にて7月13日から10月31日まで開催。クロード・モネ、歌川広重、葛飾北斎らの作品も同時に展示される。



平松礼二《桜》1986年 愛知県美術館蔵

愛知県美術館友の会は、団体も入会していただくことができます。現在ご入会いただいている団体は、名古屋芸術大学、株式会社MARUWAの2団体です。ご協力ありがとうございます。



名古屋芸術大学

大学院音楽研究科/音楽学部/人間発達学部

〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井261番地

TEL:0568124-0315 FAX:0568124-0317

大学院美術研究科/美術学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL:0568124-0325 FAX:0568124-0326

大学院デザイン研究科/デザイン学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL:0568124-0325 FAX:0568124-0326



ceramics innovation

MARUWA

株式会社 MARUWA

〒488-0044 愛知県尾張旭市南本地ヶ原町三丁目 83 番地

TEL (0561) 51-0841

<http://www.maruwa-g.com>

株式会社 MARUWA SHOMEI

〒110-0015 東京都台東区東上野一丁目1番12号栗橋ビル

TEL (03) 5812-0870

<http://www.maruwa-shomei.com>

株式会社 MARUWA QUARTZ

〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字大平 7-1

TEL (0247) 62-0012

<http://www.maruwa-g.com>

○愛知県美術館コレクションから一深く知ると、もっとみえてくる○

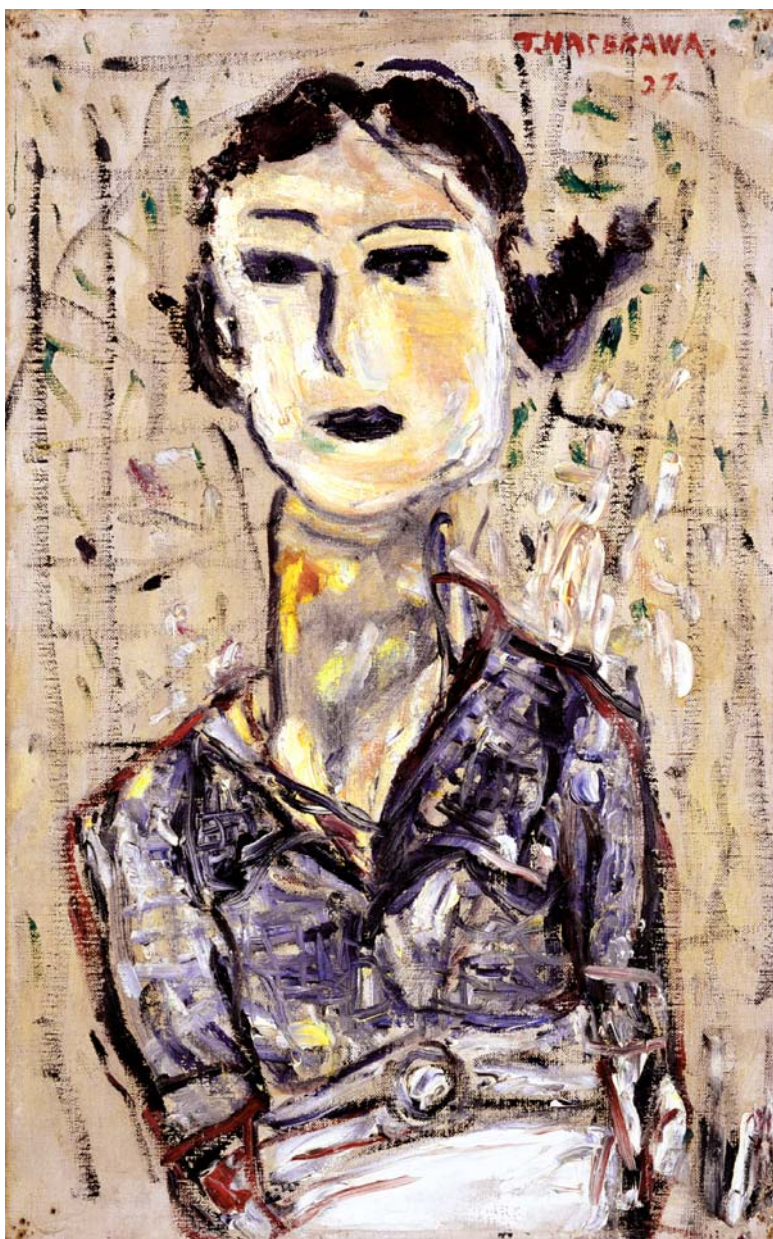
長谷川利行《ノアノアの少女》木村定三コレクション

(編) ここでご紹介する所蔵作品《ノアノアの少女》(部分)を、本会報表紙に掲載しました。

果たせなかった約束、と書くと何やら下手な流行歌のようですが、当館の学芸員としてはこの作品のことを考えると少しだけ悔いが残ります。というのも、生前の木村定三氏からこの絵を寄贈していただく際、「描かれた少女がその後どうなったか調べて欲しい」と当時の学芸員が頼まれていたのですが、ついにその宿題に答えることができないまま、木村氏が他界されてしまったからです。

題名のノアノアとは、新宿二幸(現在のALTA)の裏手にあったカフェのこと。長谷川利行がよく通い、女給の肖像画を何点か残しています。どの作品も素早いタッチで女性の印象を刻んでいます。画家とモデルを囲む寛いだ雰囲気も感じられます。その内の1点はS子さんという女性がモデルで、午前中はタイプライターの学校に通い、午後は老母を養うためにお店で働く貧しい女性だったそうです(『長谷川利行画集』、明治美術研究所、1942年、21頁)。当館の作品のモデルも、そのような境遇の女性だったのかもしれません。

作者の知名度を気にすることなく、自らの批評眼だけに従って作品を蒐集した木村氏だけに、作品への感情移入には独特のものがあります。美術館で働く我々は、安酒の飲み過ぎで死んだという「画家のその後」は知っていますが、「モデルのその後」についてはあまり気に留めません。しかし画家とモデルの人生の交差点としてこの絵が存在することを思えば、モデルのその後の生き方も確かに興味深く思えてきます。すらりと伸びた首と取り澄ました表情からは気丈な性格のようにも感じられますが、木村氏はカンヴァスの向こう側に血の通った生身の人間の生活を想像していたのでした。



長谷川利行《ノアノアの少女》1937年 愛知県美術館蔵(木村定三コレクション)

約3,000点にもものぼる木村定三コレクションについて、展示や研究を通して作品を残し伝えていくために活動している私たちですが、木村氏が作品に寄せたこうした思いを受け継いでいくことも美術館の重要な役割なのかもしれません。(学芸員 石崎 尚)

■学芸員の横顔

石崎 尚(いしざき・たかし)
愛知県美術館学芸員。
昨年春に都民から三重県民になりました。活きのいい新人を期待された先輩方は、「中古車」の納品にややガッカリされたかもしれません。





AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

懇親バスツアー



5月12日(日)に今年も開催!!

友の会では、会員の方だけがご参加いただける懇親バスツアーを今年も開催します。行き先は静岡県三島市近郊の《クレマチスの丘》です。

《クレマチスの丘》は見晴らしのよい丘陵地に、ベルナルド・ビュフェ美術館をはじめ複数の美術館のほか、レストランや庭園も有する複合文化施設です。

4月にリニューアルしたばかりのビュフェ美術館では、同館のスタッフによるガイドツアーを予定。昼食は、クレマチスの丘内の日本料理「tessen」で準備しており、個人で訪れた時とはひと味違う魅力を感じていただけたと思います。

申し込まれた会員の皆様、どうぞお楽しみに!
(※申し込みは終了しました)



2012年4月のバスツアーより 思い出のひとつ
(イベント担当理事 森 健次)

友の会活動紹介

期間 2012年9月-2013年3月

★中面で紹介

「愛知県美術館・愛知県陶磁資料館コレクション企画 美しき日本の自然展」

10月 特別鑑賞会(昼・夜) ★

10月 講座(大同大学教授 佐藤達生氏) ★
「日本建築の美しさについて」

「クリムト展」

1月 特別鑑賞会(昼・夜)



決してハンサムとは言えないクリムトの手から描き出される官能美あふれる女性達。けれど、それ故に世間と闘わなければならなかったクリムトの苦悩とその才能を改めて感じた特別鑑賞会でした。
(高橋)

1月 所蔵品管理活動見学
「市民と共にミュージアムIPM」

「円山応挙展」

3月 特別鑑賞会(昼・夜)

3月 講座(名古屋大学大学院教授 木俣元一氏)
「ゴシック美術 と中世の人々のまなざし」



ゴシック美術とそれ以前の美術との違いを、ヨハネ黙示録の挿絵を見ながら、見せ方、表現方法の変化について丁寧に解説してくださいました。教会美術の見方が大きく変わりました。
(平松章子)

3月 講座(愛知県立芸術大学美術学部准教授 倉知久(比沙支)氏)
「版の魅力と行方」

定例活動

美術館モニター 3回

所蔵作品管理 のべ14回(毎月第2・第4水曜日に活動)

収蔵作品の台帳作成補助、サラシ・白手袋・軍手の洗濯、木村定三

コレクション風呂敷の洗濯・補修手入れ、防災訓練腕章・座布団製作

発送 のべ3回

受付 のべ7回

会報発行 第36号発行

ホームページ 随時更新

これからの企画展のご案内

プーシキン美術館展 — フランス絵画300年

4月26日(金) → 6月23日(日)

全館コレクション展 アイチの子カラ! (仮)

11月29日(金) → 2014年2月2日(日)

あいちトリエンナーレ2013 揺れる大地—われわれはどこに立っているのか:場所、記憶、そして復活

8月10日(土) → 10月27日(日)

印象派を超えて — 点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで

2014年2月25日(火) → 4月6日(日)

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

●10階愛知県美術館受付

●友の会事務局(火・木・金・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347
tomonokai@aac.pref.aichi.jp

編集後記 空から雄大な山脈を見下ろすと大きな自然の力に圧倒されます。広大な平野を埋め尽くす人工の光は、決して侮れない人間の力を伝えてきます。自然の力に対して人間は弱いけど、決して諦めない力を持っていることを実感しました。
(喜田)

□編集 小林克敏/中塚千佳/水野愛子/大矢真美代/喜田泉
高橋文枝/平松章子/松下智子/宮崎玲子/森健次

□協力 愛知県美術館

□発行 2013年4月

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2

愛知芸術文化センター内

TEL 052-971-5511(代)内線347

FAX 052-971-5617

E-mail tomonokai@aac.pref.aichi.jp

美術館ウェブサイト <http://www-art.aac.pref.aichi.jp>